

玉造教会ニュース

10月号

# シャローム

2016年10月2日 407号

発行：玉造教会 評議会

編集：玉造教会 広報委員会

〒540-0004

大阪府中央区玉造2-24-22

TEL 06-6941-2332

FAX 06-6941-2605

## 悩み、失敗

崔 周永 神父

「認識の悩み」と言うと、大哲学者カントにまつわる何かのように聞こえます。が、私のメモリ・スティックの内にある一つのファイル名で、由来は次のようです。

ある仕事を処理していくとします。仕事というのは殆どが仕事のやり取り相手があるわけで、締め切りは勿論相手の要求に合わせるべき、というつもりでやったにもかかわらず、仕事に漏れが出た場合が何件もありました。一所懸命、緻密に仕事をやったと思い込んでいると、あれがこれがとクレームが入って来る。過ちを繰り返さない為、何故そのような失敗が起こったのかを振り返りその原因を分析して未来の失敗を予防していく。「認識の悩み」ファイル誕生の背景です。

久しぶりにあのファイルを開けてみました。2件のケース分析でまず目に入ってきたのは、「自分」という言葉と「主観」という二つでした。早い話が、頼まれた仕事を自分がやりたいように、勝手に解釈してやってしまうということです。こういった失敗を防ぐ為に、まずは客観的情報を求めるのが一番です。例えば、崔さん、これ、〇〇さんから崔さんにやって下さいと言われてたけど。お願いしますね。という風なケースは、必ずその頼んだ人、つまり情報の発信源と直接連絡を取り仕事の中身を確認すべきです。何故なら、情報は人を通る度に、何か欠落したり、付け加わったりするためです。相手が何を望んでいるかを把握し、一番簡潔に綺麗に仕事ができるプロセスを工夫して執行に移る。

しかし、上のようなやり方で防げない過ちも沢山あり得ます。様々なタイプがあります。まずは、こっちがどうしたって情報自体が曖昧で確認ができない場合や、意思疎通の問題、つまり、お互いコミュニケーションが上手く取れない状況、それに、仕事に感情が入ってしまう場合など数えたら切りがないくらいです。となると、「認識」の悩みではなく、「存在」の悩みになっていくような気がします。つまり、今まで慣れているやり方、自分に身につけている習慣などを変えようとせず、相手とやり取りをしようとする。となると、認識はあり方と深く関わっていることが分かります。人間はよほどの大きい過ちをしでかし、大変辛い目に合わない限り今までの生き方・やり方を変えようとしないのが常のことです。

洗礼、そういった意味で洗礼は根本的に生き方を変える決心です。

信仰生活を営んでいくにつれ、わたし達は神様との出会いを切に望みます。ちよろちよろと額を伝って行ったあの水。その意味が一体何だったのかを具体的な信仰生活を通して味わっていくのです。道のりは険しいかもしれませんが。悩みも多い、失敗も少なくない。けれども、イエス様の道をわたし達も歩むこと。それが復活に繋がることでしょう。この辺で「悩み」を「十字架」と変えてみましょう。付きまとう過ちや失敗を通して神様は良い結果を見出すことができるという信頼を持って今日も頑張りたいものです。主の平和。